



Mercedes-Benz

Press Information

2020年1月9日

企業情報

メルセデス・ベンツ、2019年新車販売台数 国内純輸入車5年連続No.1およびプレミアムブランド7年連続No.1

メルセデス・ベンツ日本株式会社(以下MBJ、社長:上野 金太郎、本社:東京都品川区)は、メルセデス・ベンツの2019年新車販売台数^{*1}が6万6,523台(2018年:6万7,531台)となり、国内で販売されている純輸入車として5年連続で首位^{*2}を、7年連続でプレミアムブランドNo.1^{*2}を獲得しました。また、メルセデス・ベンツの最新テクノロジーを惜しみなく投入したシティコンパクトであるスマートは、1,990台(同:2,465台)となりました。

2019年は、主力モデル「Cクラス」に加え、コンパクトモデル、SUV、ハイパフォーマンスモデルのメルセデスAMGが販売を牽引し、2018年と同水準の販売を維持することができました。Cクラスは、安全性、快適性、動力性能などあらゆる面において高くご評価いただき、2015年以来セグメント首位^{*3}を達成し続けています。また、コンパクトモデルは、Bクラス、Aクラスセダン、CLAと続々と新型を導入し、販売全体の3割以上を占めるまでに成長したほか、輸入車最多^{*2}の8車種を取り揃えるSUVも堅調に推移しました。さらに、メルセデスAMGは過去最高^{*2}となる8,000台を超える販売を記録し、大きく貢献しました。

マーケティング面においても、より多くのお客様にメルセデス・ベンツに親しんでいただくため、ブランド体験の提供に注力しました。ブランド情報発信拠点「Mercedes me」^{*4}は、期間限定で女性に向けた拠点を銀座にオープンしたほか、12月には品川プリンスホテルにも出店し、新しいお客様との出会いの場としての役割を果たしています。また、東京モーターショーでは、コンセプトカー「Vision EQS」を含む最新モデル14台の展示や物販を通じ、ブランドの“いま”を多くのお客様に体験いただくことができました。さらに、2019年から本格稼働したレンタカーサービス「メルセデス・ベンツ レント」は、予約から決済までオンラインで簡単に手続きができ、旅先などで気軽にご利用いただける利便性から、新しいお客様はもちろん、既存のお客様からも大変ご好評をいただいております。現在北海道から沖縄まで全国に21のスポットをご用意しており、今後も拡大予定です。

2020年は、2019年に発表した日本におけるメルセデス・ベンツ初の電気自動車「EQC」、日本初のクリーンディーゼル・プラグインハイブリッド乗用車「E 350 de」、世界初の燃料電池プラグインハイブリッド「GLC F-CELL」など、ダイムラー社が掲げるCASE戦略の推進に欠かせない電動モデルの本格配車が始まります。こうした先進性のある魅力的な商品の展開と、最高のブランド体験“Best Customer Experience”の提供を通じてメルセデス・ベンツおよびスマートの魅力余すところなくお伝えし、全国の正規販売店と一丸となって、皆様に選ばれ、最も愛されるブランドを目指して更に邁進してまいります。

¹ 乗用車(新規登録ベース)、日本自動車輸入組合による ² 自社調べ ³ 欧州委員会の分類概念に基づいた輸入車Dセグメント
⁴ 2011年のオープン以来、1,000万人を超えるお客様がご来場。2020年1月現在、東京・大阪・羽田空港・品川の4拠点で展開中

